

「極道」先生 意味が違う

東京都大田区立の中学校で昨年度、三年生の学級担任教諭が教室に「極道」と書いた学級スローガンの横断幕を掲げていたことが六日、明らかになった。教諭は四十歳代で国語担当。個人的な信条の「道をきわめる」という意味で掲げていたというが、辞書によると「極道」は「悪事をする」となどの意味。保護者から「おかしい」と指摘があり、学校側は「教育上、妥当性を欠く」として撤去し、区教委は教諭を厳重注意処分とした。

学校の説明によると、

この教諭は三年生の学級担任だった昨年四月以降、教室の黒板の上に「極道」と大きく書いた縦五十センチの横長の布を掲示。今年三月十八日に行われた卒業式の終了後は、「極道」と書かれたタスキをかけて校門で卒業生を送り出した。

学級スローガン 教室に横断幕

タスキを見た保護者が疑問を抱いて区教委に照会。校長は事実関係を区教委に報告するとともに、教諭は不適切だとして横断幕を撤去し、新年度は掲示しないことにした。

この教諭は、快活で意欲的に生徒指導にあたる「熱血先生」として知られるという。「物事に臨むさいは道をきわめるよ」が信条で、折に触れて生徒にも「この教諭は、快活で意欲的に生徒指導にあたる「熱血先生」として知られるという。教諭の学校側への説明によると、「極道」は自己が高校時代の恩師の言葉で、教職の道を選び前

都内中学の国語教諭 厳重注意

極道 広辞苑によると「極道」は①悪事を行うこと、またはその人②放蕩(ほうとう)をする人、または放蕩者③人をのしつていう言葉の意味。ちなみに「極道」と書いて「きわめみち」と読むには送り仮名の「め」が必要で、広辞苑にそうした読み方の取り扱いはない。「道をきわめる」の漢字は「究める」が正しい。

同校の校長は「初めてではないことや見たときはギョツとしたが、本人にたずねると『どう?』ではなく、クラスもこのスローガンのもとでまとまっていたのでそのままにしていた」と釈明。「そもそも『極道』を『きわめみち』とは読まないし、保護者が当惑するのも無理もない。教育上、妥当性を欠き、本人も含めて反省している」としている。

大田区内の中学ではテスト問題に男性性器の長さを答えさせる問題が出題されたり、理科の授業中に十五歳未満の児童生徒の鑑賞が禁じられた「R15」指定の映画「バトル・ロワイアル」を視聴させるなどの不祥事が発覚している。

区教委は教諭を厳重注意処分としたが、「悪党のススメ」を説いたわけ

ではないことや省し卒業生三十の自宅を訪ね、い方が不適切かどうか、謝罪行動も盛り込んで都教委に報告す